

Factors related to deterioration of renal function after singleton delivery in pregnant women with chronic kidney disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深澤, 祐子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032089

主論文の要旨

Factors related to deterioration of renal function after singleton delivery in pregnant women with chronic kidney disease

(慢性腎臓病合併妊婦における分娩後腎機能増悪関連因子に関する臨床的検討)

東京女子医科大学産婦人科学教室

(指導：松井 英雄 教授)

深澤 祐子

Taiwanese Journal of Obstetrics & Gynecology
第 55 巻 166～170 頁 (平成 28 年発行) に掲載

【要 旨】

我々は、慢性腎臓病 (Chronic renal disease; CKD) 合併妊婦の分娩後腎機能悪化に関与する因子を明らかにすることを目的に研究を開始した。2001 年からの 10 年間に当院で扱った 139 例の CKD 合併妊婦、全 156 例の CKD 合併単胎妊娠を対象とした。分娩後腎機能悪化 (Deterioration of renal function; DRF) は分娩前後で CKD 重症度分類における重症度進行例と定義し、DRF に至った症例群 39 例と対照群 117 例について比較した。統計には、X 二乗検定、Fisher 直接確率試験、Mann-Whitney 順位和検定、Kruskal Wallis 順位検定、Student の T 検定、多変量解析を用いた。DRF 発症に関わる因子として、糸球体腎炎の存在、妊娠前からの重症蛋白尿、抗血小板薬の不使用が抽出された。また、DRF 発症を妊娠前の推算糸球体濾過量 (estimated glomerular filtration rate; eGFR) から予測することを目的とし、Kaplan-Meier 法を用いて ROC 曲線を作成した。これより、妊娠前の eGFR が 75ml/min 以上の症例では約 78% の確率で DRF に至らないと示唆された。この報告は、CKD 合併妊娠症例において DRF に至る明確なカットオフ値を示した初めての報告である。